

鹿児島県枕崎慰霊祭



愛知県神社庁は、毎年国内海外の戦地を訪ねて慰霊祭を斎行し、戦没者を慰霊し同時に世界の平和を祈る旅を実施している。本年は、戦艦大和を始め第2艦隊の慰霊祭を小串和夫庁長を始め県内より203名の参加者を得て取り行われた。

戦艦大和を旗艦とする旧日本海軍第2艦隊の計10隻は、昭和20年4月7日、沖縄突入の海上特攻「天一号作戦」で鹿児島の西南西約300キロを南下中、米軍機動部隊艦載機の延べ1000機の波状攻撃を受け、大和をはじめ巡洋・駆逐艦など計6隻が沈没。乗組員・将兵合わせ3738名が犠牲となった。



6月16日早朝、名古屋駅を出発した一行は、翌17日、牧野武彦副庁長齋主の下、鹿児島県神社庁長川上親昌氏・平和祈念展望台奉賛会会長岩田三千生氏を来賓として慰霊祭を斎行した。

当日は早朝より曇り空であったが、祭典が始まる前には生憎の雨模様となったが、彼の地では鹿児島では、出立や祝い事、神事の日などに降る雨を「島津雨」と称し心叶うものであるとのことであり、往時を偲びひたすらに慰霊の誠を捧げる参列者の心に応えるかのようであった。

祭典開始に先立って、去る6月8日薨去された桂宮宜仁親王殿下に対する黙とうが捧げられた。愛知県内より遠路を真心込めて持参した日本酒、水、菓子などの庭積神饌は所狭しと供えられ、愛知県護国神社の舞姫による「みたま慰めの舞」は英霊の方々の心永久に静かなれとの想いを伝えていた。愛知県神社総代会副会長神尾俊治氏による慰霊の言葉奉読の後、参列者全員が愛知県内より持ち込まれた榊で調製された玉串を献じ拝礼を終えた。祭典後、愛知県神社庁長、鹿児島県神社庁長また平和祈念展望台奉賛会会長の挨拶があり、祭典はつつがなく終了した。

慰霊祭後、一行は国のため命を捧げた若者たちに更なる思いを寄せながら愛知県内へ戻った。